

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370103

研究課題名(和文)音と楽譜にみる町田嘉章(佳聲)の民謡研究と新民謡創作活動

研究課題名(英文)The Study of Kasho Machida's Folk Song Study and his Musical Compositions

研究代表者

島添 貴美子(Shimazoe, Kimiko)

富山大学・芸術文化学部・准教授

研究者番号：00432120

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果の概要(和文)：本研究は、町田嘉章(佳聲)とNHKの民謡調査を取り上げ、戦前から戦後にかけての民謡調査史を描くことを目的とし、未整理だった町田の遺構のうち、音資料の整理とデジタル化を行うとともに、NHK『日本民謡大観』関連資料の整理を行った。

町田嘉章(佳聲)(1888-1981)は日本民謡研究家であり、昭和16年より始まったNHKの日本民謡大観事業に携わった。一方、NHKは大正14年の開局当初より、民謡を放送素材の一つと考え、情報収集を行っていた。半世紀以上にわたって行われた『日本民謡大観』事業は録音・保存技術の発展により調査の質を大きく変えた。

研究成果の概要(英文)： The purpose of the study is to trace the history of the folk song research in Japan by digitalizing and organizing the recording materials of the Kasho Machida's posthumous works and by analyzing and organizing the documents of NHK(Japan Broadcasting Corporation)'s folk song research project.

Kasho Machida (1888-1981) was a field worker of the Japanese folk songs and the member of the NHK's folk song research project from 1941 to 1979. NHK had seen Japanese folk songs as an important material for Radio programs and had researched them since 1926. The way of NHK's folk song research project had been changed by the development of recording technique for over 50 years.

研究分野：音楽学

キーワード：民謡 日本民謡大観 町田嘉章(佳聲) レコード 民謡調査 NHK(日本放送協会) 真正性

### 1. 研究開始当初の背景

この数年の間、民俗学や民俗音楽学における「民謡」とは全く異なる歌が、「民謡」と言われていたことが「発見」されている。いわゆる俗謡、はやり唄、歌謡曲などとも言われたこうした歌が、戦前の日本では「民謡」と呼ばれていたという事実は、放送メディアや観光の産物としての「音頭」といった「ご当地ソング」の創作といった状況と切り離すことができない(渡辺裕「『民謡の旅』の誕生」『美学藝術学研究』25、2007年ほか)。

このことは、90年代から起こった過去の民謡や民俗芸能研究の見直しとも関連している。初期にみられる批判的な見直し(橋本裕之、他『正しい民俗芸能研究0号』1991年ほか)を経て、メディアに注目した柳田國男の民謡観(武田俊輔「柳田民謡論の可能性と困難:大正~昭和初期日本におけるメディアと音声性の文脈から」『柳田國男研究論集』3号、2005年)、柳田國男の民謡研究の手法(長野隆之「柳田國男の民謡研究」『日本歌謡研究』39号、1999年)といった歴代の研究者の研究の見直しへと展開している。本研究で取り上げる町田嘉章(佳聲)についての研究もここ数十年の間に見られるようになった(真鍋昌賢「比較の夢:町田嘉章と『民謡』の録音・採譜」『口承文藝研究』30、2007年ほか)。

メディアや観光の産物としての「民謡」の研究と、柳田以降の民俗学や民俗音楽学における民謡研究の見直しは、現代における歴史の再解釈の試みである。本研究もこうした歴史の再解釈の流れに位置づけられる。

こうしたテーマ設定の下に、挑戦的萌芽研究(平成23-24年度)「町田嘉章の民謡調査にみる民謡調査史の基礎的研究」では、町田の蔵書を保管する財団法人日本民謡協会の協力を得て、町田の採集手帳(フィールドノート)と未整理の遺稿の閲覧と撮影(デジタル化)を行った。この成果に基づき、町田の採集手帳を解読し、戦前の町田の民謡調査状況を明らかにするとともに(島添貴美子「『日本民謡大観』前夜:町田嘉章の初期の民謡調査」、細川周平編著『民謡からみた世界音楽 うたの地脈』ミネルヴァ書房、2012年)、民謡調査の成果をどのように理論化したかを民謡理論史としてまとめた(島添貴美子「町田嘉章と藤井清水の音組織論 上原六四郎『俗楽旋律考』から小泉理論への橋渡しとして」、藤田隆則・上野正章編『歌と語りの言葉とふしの研究』京都市立芸術大学、2012年)。

### 2. 研究の目的

本研究は、以上の学術的背景のもとに、町田とNHKによる『日本民謡大観』調査・編纂におけるメディア(録音)と採譜の役割と、町田及び同時代人による民謡研究が与

えた新民謡創作への影響を明らかにすることが当初の目的であった。

しかし、幸運なことに、本研究が始まった初年度に、NHK知財センター(当時、知財展開センター)から、番組制作に活用することを前提として、『日本民謡大観』関連資料を貸与いただき、計画当初、実現の可能性が低いと考えていたため予算に入れていなかったNHK『日本民謡大観』関連資料の調査・整理が実現することになった。そこで、当初の目的のうち、町田とNHKによる『日本民謡大観』調査・編纂におけるメディア(録音)と採譜の役割にしばって、研究を進めることとした。

そのため、本研究の目的は町田嘉章(佳聲)の遺稿および、町田が残した録音資料や楽譜資料の収集・整理に加えて、NHKが所蔵する『日本民謡大観』関連資料の整理を通して、日本民謡の調査史を再考することとした。特に、『日本民謡大観』の調査・編纂におけるメディア(録音)と採譜の役割に注目し、町田やNHKが収集した歌の特徴、採集した資料の整理方法に注目した。

### 3. 研究の方法

上記の目的に基づいて、本研究で実際に行ったことは、以下の3つの作業(対象と方法)に大別される。

#### (1) 町田資料の収集・整理

平成23-24年度の挑戦的萌芽研究で、町田の採集手帳、未整理の草稿・楽譜・手紙等の撮影、出版原稿の複写を行い、収集した資料のリスト化、および、二次資料(町田が編纂した出版物)との照合作業を行うことで、戦前の町田の民謡調査の方法と内容が明らかになった。これを受けて、引き続き(財)日本民謡協会の協力を得て、協会が所蔵する町田の音(録音)資料の整理とデジタル化作業を行った。

#### (2) 『日本民謡大観』関連資料の整理・閲覧

NHK知財センターより貸与された『日本民謡大観』関連資料(段ボール74箱)の整理・リスト化、閲覧作業を行った。

#### (3) 国内外における民謡研究とメディアの関わり

ICTM(国際伝統音楽協議会)における民謡研究のプロジェクトの歴史をICTMの会報と機関誌からたどり、海外における民謡研究とメディアの関わりを整理した。

### 4. 研究成果

上記の作業は、本研究の期間中に以下の(1)~(4)まで進めることができた。

#### (1) (財)日本民謡協会所蔵の町田が残した音源資料の整理・デジタル化

町田が残したSPレコードとオープンリールおよび、金属原盤の整理・デジタル化作業を完了させた。中でも、本研究期間中に、

録音盤及び採譜のための音盤として使用されていたと思われる金属原盤が(財)日本民謡協会に所蔵されていることが今回の作業中に初めて分かったのが発見である。これらの音盤の整理、クリーニング、デジタル化作業(ファイル数3,044)とレコードラベル等の撮影を行った。SPレコードや金属原盤のクリーニング作業はかなり時間がかかったため、町田資料のうち作業が完了したのは、SPレコード、オープンリール、金属原盤の3種類で、LPレコードとドーナツ盤については、ほとんど内容を確認することができなかった。

#### (2) 『日本民謡大観』関連資料の整理・閲覧

『日本民謡大観』関連資料は、段ボール74箱と量が膨大であるため、すべての資料の整理作業が期間内に終わらないことを念頭において、整理する資料を調査ファイルに限定した。その結果、昭和27～47年の調査ファイルとアイヌの音楽調査(昭和22～28年度)の資料に焦点を当て、閲覧・整理を行った。

(3) ICTM(国際伝統音楽協議会)における民謡研究のプロジェクトの歴史を文献からたどり、

(1)と(2)の作業成果を踏まえて、戦前から1950年代までの録音技術の変化と『日本民謡大観』の調査方法が明らかになった。

東京放送局(現在のNHK)がラジオ放送局を開局したのは1925(大正14)年のことである。本放送開始一週間前の7月5日夜に仮放送で「地方民謡と新民謡」を放送したところ好評を得たという。(『日本民謡大観』制作スタッフ編『NHK日本民謡調査の記録』NHK放送事業局データ情報部、1995年)

民謡は開局当初より放送素材の一つであった。当時のNHKは、人々にとって身近な物事を番組で取り上げることで、ラジオという未知なる物に親しみをもちてもらおうと考えた。現在なら、メディアで取り上げられることで全国に知られるのが当たり前だが、開局当時はその逆で、ラジオというメディアを知ってもらうために、民謡を利用したのである。言い換えれば、それだけ、当時の人々にとって民謡は身近な存在であったといえる。

こうしたことから、NHKでは早い時期から、どこの誰がどんな歌を歌えるのか、という情報収集を行っていた。そしてこれらの収集調査は1940(昭和15)年より全国規模の民謡調査事業に発展する。この「日本民謡大観」事業は大河事業ともいわれ、完了したのが約半世紀後の1993(平成5)年であった。

「日本民謡大観」事業は、外向きには、日本をいくつかの地域に分け、調査収録した資料をもとに五線譜で採譜し、解説をつけて書

籍として刊行していた。それと同時に、内向きには収録音源を音盤化し保存・活用してきた。

「日本民謡大観」事業の歴史は、録音・保存技術の発達の歴史でもある。1940年代はSPレコードで収録・保管されていたが、1952(昭和27)年よりオープンリールでの収録が始まる。「日本民謡大観」事業は、書類上、1951(昭和26)年で全国の基礎的資料の収集を終えたとしている。しかし、オープンリールの導入で、その後の補足調査で収集される民謡の数は飛躍的に伸びた。特に、片面3分のSPレコードから、数十分の録音ができるオープンリールでの収録に代わることで、多少長い曲でも途中で打ち切ることなく収録できるようになった影響は大きい。(雑誌論文)

#### (3) 番組制作への成果の活用

日本民謡大観の音源、これまで収集整理した町田資料および、NHKアーカイブスの資料を活用して番組制作・出演を行った。(NHKラジオ第2「音で訪ねる ニッポン時空旅」2015年1月～現在、30分、年間24回制作、お正月特番、60～90分、年間2～3本制作した。(その他))

#### (4) 民謡の真正性の問題

ICTM(国際伝統音楽協議会)はユネスコの下部団体であり、世界最大の音楽学会である。創設時の名称がIFMC(国際民俗音楽協議会)ということもあって、創立当初より、民謡に関わる研究プロジェクトが行われてきた。中でも、初期の時代に、NHKを含む世界各国の放送局から民謡についての情報を収集し、民謡とメディアの関わりについて注目してきたこと、そして、初期のICTMで民謡の真正性というテーマに高い関心が寄せられていたことが分かった。

民謡調査によって収集される「民謡」とは、収集すべきと価値づけられた民謡であり、失われていくと考えられていた民謡であり、実際に、消滅していった民謡である。一方、現在でもNHKでは民謡番組はラジオでもテレビでも番組が制作されており、戦後になって民謡ブームは3度もきた、といわれている。この矛盾を民謡の真正性を切り口に、ICTM(国際伝統音楽学会)大会で発表したところ、民謡研究において古典的で困難なテーマと考えられており、それゆえに現在では直接、民謡の真正性がテーマとなることはなくなっているが、同時に日本を越えたある程度の広がりのあるテーマで、現在でも洋の東西を問わず研究者の間での関心は高いことがわかった。(学会発表)

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

島添貴美子「NHKと日本民謡調査」『歴博』  
(201)、2017年、査読なし

吉川文、遠藤徹、島添貴美子、田中有紀「東西の十二平均律」『東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系』67、29-53頁、2015年。  
(分担執筆:「1.現代日本の平均律」30-33頁)査読なし

〔学会発表〕(計4件)

Kimiko Shimazoe. "Reconsideration of the History of Japanese Folk Song Research in the 20th Century: A case study of the Japan Broadcasting Corporation (NHK) folk song research project". *44th World Conference, International Council for Traditional Music*, 2017.

島添貴美子「NHKのアイヌ音楽調査」(「民謡研究の現在」シンポジウム) 2017年

島添貴美子「NHKと日本民謡大観事業」(「民謡研究の現在」シンポジウム) 2016年

島添貴美子「日本民謡大観とNHK:開局90周年にあたって」(「民謡研究の今日」シンポジウム) 2015年

〔その他〕

NHK ラジオ第2「音で訪ねるニッポン時空旅」2015年1月~現在  
<http://www4.nhk.or.jp/jikuu/>

小島美子、内田順子、島添貴美子 「日本民謡データベース」(国立歴史民俗博物館来館者利用データベースれきはく)  
\*作業件数69,043件・公開件数65,600件、2016年3月作業終了

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

島添貴美子 (SHIMAZOE Kimiko)  
富山大学・芸術文化学部・准教授  
研究者番号: 00432120